



旧約聖書講解(22)雅歌【わが愛する者よ！】
聖書本文:雅歌2章10節-17節/暗所聖句:雅歌2章16節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主にあつてお元気で、平安に過ごしましたか。今日は旧約聖書22番目である雅歌と一緒に考えてみたいと思います。昨日は2月14日のバレンタインデーでした。(バレンタインデーの由来はいろんな説がありますが、その中で一番有力なのはまだキリスト教がまだ厳しく禁じられているローマ帝国の時代、当時皇帝クラウディウス2世は戦争に出る兵士たちが愛する人を故郷に残していると士気が下がるという理由で、ローマでの兵士の婚姻を禁止していたそうです。しかし、キリスト教司祭だったウァレンティヌス(バレンタイン)はある兵士と彼の恋人の結婚式を聖書の御言葉で導き、行いましたが、後彼はばれてしまい捕らえられ、処刑されるようになります。ローマの皇帝はウァレンティヌスを処刑したその日は、ユノ(当時、ローマでは、2月14日は女神・ユノの祝日でした。ユノはすべての神の女王であり、家庭と結婚の神で拝んでいた)の祭日である、その2月14日をあえて選んだそうです。なので、今日のバレンタインデーの由来は269年2月14日にローマで殉教されたクリスチャンであるウァレンティヌス司教を記念しつつ、命をかけて愛を誓った事を記念した事が始まりであるということです。しかし、その後、クリスチャンとして御言葉を持って命をかけて愛を誓ったウァレンティヌスの信仰の姿はなくなり、恋人達の日に性質が変わり、愛の告白の日として男女の愛の誓いの日としてただ祝って来ています。日本では女性から男性にチョコレートを渡す日になっているでしょう。)

今日ここに愛の御言葉と言われる雅歌書が我々を招いて下さっています。どんな愛のメッセージが雅歌に書かれているのでしょうか。まず、この雅歌の意味は名前通りに‘優雅な歌、一番美しい歌’と言う意味です。ヘブル語の聖書のタイトルは‘シールハシリム’つまり、‘歌の中の歌(Song of Songs)’と言う意味であります。神様がイスラエルのダビデの子ソロモン王(7回彼の名前が記されています)が若い頃記録させた愛(8章の中一番多く56回出てくる)の賛歌の内容の御言葉であります。すなわち、この雅歌書にはソロモン王より年上でありながら花嫁(‘私の妹、花嫁よ’4:9、12、5:1)であった、名前は分らないあるシュラムの女(6:13)に対する深い愛情と愛の歌が描かれています。私自身も、今まで雅歌書を用いて何回か教えたことはありますが、礼拝の中でのメッセージは2回しかないほどなかなか少なかった聖書の本文であります。みなさんも大体今まで他の教会とか、先生たちからもなかなかこの雅歌書の本文のメッセージを聞いた事がなかったかも知れません。なぜなら、この雅歌は他の聖書と違った特異なところがあるからです。

<1. 雅歌の特徴>

この雅歌の特徴についてまず一緒に考えて見ましょう。一つ目、総8章で構成されているこの雅歌には‘神’の御名が一度も出ていません。以前もこの雅歌のように神の御名が一度も出てなかった旧約聖書がありましたが、覚えていませんか。そうです。エステル記でした。旧約聖書39冊の中で神という単語が言及されていない二つの聖書がいわゆるエステル記とこの雅歌書であります。

二つ目に、この雅歌にはソロモン王の花嫁であったシュラムの女(6:13)への恋歌(れんか)が書かれています。

ソロモン王が熱く、深く愛していたそのシュラムの女(6:13: Shulamite)の具体的な名前はこの雅歌書には出ていませんが、特徴として彼女は普通の女性よりも、はだの色が黒かったようです(1:5 ‘ソロモンの幕のように黒いけれど美しい’)。ソロモンとシュラム女との愛を歌ったこの雅歌書を見ると、男女の中、特に愛する花嫁への具体的な愛の表現がなまなましくたくさん出ています。全部並べるより、8章までの短い聖書の箇所なので、是非個人的に読んで見てほしいですが、例えば、1章2節では、“あの方が私に口づけてくださったらよいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快(こころよ)く、”15節には、“ああ、わが愛する者よ。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ。あなたの目は鳩のようだ。”16節には“私の愛する方。あなたはなんと美しく、慕わしい方でしょう。私たちの長いす(ベット)は青々しています。”

実は比較して見ますと、我々の日本語聖書では雅歌書の表現がわりと丁寧に訳され書かれています。日本語聖書より英語の聖書が、そして英語の聖書より原語ヘブル語の聖書がもっとリアルな愛の描写が書かれているので、旧約時代のユダヤ人たちは30才になる前にはこの雅歌書を読ませなかったようです。なぜなら、もしもまだ大人になる前、大体結婚をする前には神の御言葉であるこの神聖な雅歌書の本当の意味が分らず、誤解をし、誤用(ごよう)してしまう可能性があったからです。

それほど、雅歌書には具体的な愛の表現がリアリティに書かれているため、以前から神の御言葉として外し、単なる人間的なラブストーリーでしか見なしたくないような人たちもいたし、今日も自由主義者の神学者や教会はまるで過ちで聖書の中に入れられてしまったかのように神の御言葉として見なそうとしない間違いもあります。

<2. どうして雅歌書が聖書の御言葉なのか。>

すると愛する信仰の家族のみなさん、男女の間での深い愛とむきだしの表現がたくさん記されているこの雅歌書がどうして神の御言葉である聖書として認められ聖書の66冊に含まれることができたのでしょうか？

神という単語も一度も出てないし、特別な予言的記録もまったくないのにです。そういうわけで、雅歌書をこんにちもただのソロモンの愛の物語、人間同士の恋の歌声しか理解してない一部クリスチャンたちもいますが、これはただの表だけの理解に過ぎないわけです。もちろん異性愛、夫婦の間での真の愛について雅歌書を通して多くのことを学ぶことができますが、この雅歌書は単純にソロモンとシュラムの女との異性の愛を語っているのではなく、キリストと教会の聖い愛を比喻されたわけで聖書の66冊に含まれたのです。

つまり、ソロモン王とシュラムの女との純潔で、真の愛は神様の愛を喩えていると解釈します。聖書には教会(信じる群れ)に対するキリストの愛を夫と妻との夫婦関係としてでも説明されています。エペソ人への手紙5章21節以下によると、“キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。22妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。23なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。24教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。”そして25節には“夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。”

妻に対する夫の愛を語った後32節によると、“この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。”と結論的に記録しました。つまり夫婦の間での愛をキリストと主を愛し、信じる群れとしての教会との関係として説明しているのです。これを模型的(もけてき)解釈だと言います。マタイの福音書25章ではイエス様自身を花婿(はなむこ)に、イエスキリストを信じ、従っている者たちを花嫁として喩えられています。

第二コリント11章2節によると“というのも、私は神の熱心をもって、熱心にあなたがたのことを思っているからです。私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです。”そして黙示録19章7節にも教会をさして“小羊(キリスト)の花嫁”だと喩えました。それだけではなく、旧約聖書のいろんな箇所からも神様ご自身を夫として(イザヤ64:5、ホセア2:16, 19)、教会を花嫁として(イザヤ62:4-5)言われたり新約ではキリストが教会の花婿として(マタイ25:1、ローマ7:4、第二コリント11:2、エペソ5:32)、教会はキリストの花嫁(黙示録19:7、21:2, 9)として描写されています。このように雅歌書も単なる男女の愛の内容ぐらいではなく、この内容とおして神と神を愛し、信じ、従う群れである教会の霊的連合を意味しているのを覚えて下さい。

<3. 雅歌書の意味>

ですから、雅歌書は単純な異性の愛を歌っている本ではなく、これをとおしてキリストを信じる者たちに対するキリストの愛を表してくれる聖書です。第二テモテ3章16-17節は“聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。”と書かれています。今日のこの雅歌書も靈感による神様の御言葉でありますので、当然我々に教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益であるわけです。しかし、この雅歌書は旧約の歴史書や預言書とは違って案内書の助けが必要となります。雅歌書は比喩的な表現が多いので、その文字だけにとどまってしまうと御言葉のまことの意味を見逃してしまいやすくなります。雅歌書はただの男女の愛を歌ったわけではなく、ここにも我々への神のメッセージと教訓が含まれているので、その新しい目線で先ほど読んだ箇所をもう一度考えて見たいと思います。

1章2節“あの方が私に口づけしてくださったらよいのに。あなたの愛はぶどう酒よりも快く、”これは教会がキリストと霊的に一つとなる事を切に願っている表現です。“あなたの愛はぶどう酒よりも快く”という箇所は聖徒と神様が霊的交わりを味わう時の親密な愛を表す表現であります。15節の“ああ、わが愛する者。あなたはなんと美しいことよ。なんと美しいことよ。あなたの目は鳩のようだ。”という箇所は花婿なるイエス様がシュラムの女つまり信じる群れの教会を愛し、ほめる言葉です。“あなたの目は鳩のようだ”ここで鳩は柔和と純潔を表します。16節の“私の愛する方。あなたはなんと美しく、慕わしい方でしょう。私たちの長いすは青々としています。”ここで長いすは信者と神様が交わる場所を意味します。これが青々としていると言う表現は生命力があると言う意味です。まとめて見ると、例え、1章2節から6節まではキリストに対する教会の愛をさし、7節から11節までは教会に対するキリストの愛をさしています。12-17節まではキリストと教会の愛の関係を話しています。このようにキリスト、教会、そして両者の関係を結婚の夫婦の深い愛情、純潔と信頼、一体となる親密さとして振り返る記録が8章までの内容です。

<4. わが愛する者よ。さあ、立って、出ておいで！>

雅歌書はどんな聖書なのか、どうやって理解したほうがいいのか申し上げました。これから本文に注目してみましよう。さて、今日の本文が含まれている雅歌2章では2章1-2節はキリストをシャロンのシャフランに喩えます。

3節から7節まではキリストに対する教会の愛と賛美が記録されています。そして8-14節まではキリストと教会の間での深い愛を歌っています。特に10-14節では愛する人に新しい季節がやってきたので、立って、出ておいでと勧める表現があります。10節は“私の愛する方は、私に語りかけて言われます。「わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで。」”花婿として喩えられたキリストは花嫁として比喩された愛する主の教会に向かって“さあ、立って出ておいで”と言っています。キリストを愛し、信じる我々に向かって“わが愛する者、美しいひとよ。”と呼びかけています。我々が他人にどう写されるかに関係なく、神様は我々をこれほど愛し、受け入れてくださいます。そして神様と親しく交わっていた者たちが神様と離れ、疎遠（そえん）して来た時、ふたたび相変わらず呼びかけて回復させてくださる神様のお心を表しています。“立って、出ておいで”これはまさに弱くなっている我々に向かって新しい力と勇気を与えて下さる主からの呼びかけではないでしょうか。

11節と12節の言葉、“ほら、冬は過ぎ去り、大雨も通り過ぎて行った。12地には花が咲き乱(みだ)れ、歌の季節がやって来た。山鳩(やまばと)の声が、私たちの国に聞こえる。”これは変えられた環境を言います。“冬は過ぎ去り”冬はすぐ暗くなり、周りが寒い不毛(ふもう)の季節を意味ですが、もう長い冬が過ぎ去ったのもう立とうという意味です。“大雨も通り過ぎて行った”大雨は嵐がともなう冬の雨で苦しませますが、この大雨も通り過ぎてあたたかい季節がやって来たという意味です。“地には花が咲き乱れ”これは春とともに命のよみがえりで寒々(さむざむ)とした木の枝に新芽(しんめ)が出る変化と刷新(さっしん)の時が来たと言う意味です。“山鳩の声が、私たちの国に聞こえる”これは冬の間の蟄居(ちつきよ)生活から春が来て暖かくなって来た事の比喩です。もはや冬も過ぎ去り、大雨も通り過ぎたので、新しい霊的刷新が起こらなきゃと言うことを言います。

13節をみてください“いちじくの木は実をならせ、ぶどうの木は、花をつけてかおりを放つ。”ここでも自然の現象をとおして変化の季節が来た事を表しています。14節、“岩の裂(さ)け目、がけの隠れ場にいる私の鳩よ。私に、顔を見せておくれ。あなたの声を聞かせておくれ。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい。”花婿は花嫁をがけの隠れ場にいる鳩に喩えながら我々を導いて下さる主の手をつかんで立って起きるようにと愛の応援と励ましを表します。“あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい”引き続き花婿は“さあ、立って、出ておいで。”と呼びかけています。これは10節と13節で繰り返されています。おそらくこの女はためらっていたのか、それとも我々に刺激を与え続けているかのようにも感じます。キリストは我々に霊的に生き返る、回復される事を願い、もう一度私に近づて来るように力となっています。この本文に対して初代教会の信徒たちはひどい迫害と受難の歳月が流れた後、教会を弾圧した者たちが退けられ、ついに自由と平和が訪れる時として解釈し、自由に礼拝をささげ、聖餐に預かる時を信じ、今も苦しい環境を主御自身が変えて下さるということで解釈しました。今日雅歌書のこの本文の御言葉は霊的衰退(すいたい)と安逸(あんいつ)、疑いと不信の日を送り出して、これから命の蘇生(そせい)、関係の回復、回りの変化を経験しようではないかという神様からの愛のメッセージであります。神様は我々に新しい勇気と希望を引き起こしながら、ふたたび決断して立ち上がり、主の御前に出て来るように待てておられます。我々にも立ってともに来ようと勧め、訴えているのです。

<結論>

雅歌書はソロモン王とシュラム女との間での愛だけを歌った人間的なラブストーリーの本だけではありません。それ以上の意味があります。キリストが教会つまり主を信じ、今日も従っている我々を昔も、今も、これからも変わらず、愛して下さるその愛を表しています。雅歌書もほかの旧約の聖書よりもっと深く旧約全体に照らし合わせて解釈しなければなりません。

今日で、我々は旧約聖書の中詩歌書と言われるヨブ記から詩篇、箴言、伝道者の書、そして最後の雅歌まで教えられました。特に箴言から始まる明確な流れがあります。箴言は神様を愛し、隣人に仕えている真の知恵ある人生を、そして、次の伝道者の書は神様のなしの人間の人生はむなししいと言いながら、人間の愛が創造主の神様への愛をうわまわることにはできないと言いました。続けて今日の雅歌書は男女の愛をとおして花婿なるキリストの花嫁なる信じる者たちの教会に対する深い愛を表しています。このように考える時、聖書としての雅歌書の位置は確実にされます。

我々が住んでいるこの日本にも冬が過ぎ去り、春になろうとしています。昨日の大雪も、雨もやみました。改めて、我々も心も体も整理し信仰によって行進し、主の愛と恵みの御座に出て行こうではありませんか。もし、まわりに弱くなっている人がいるでしょうか？立ってともに主に近づけるように励ましてください。もし不信の中で生きている方々がいますか？立ってともに主イエスキリストに行こうと励ましてください。もし霊的に疲れたり、落ち込んでいる方々はいませんか？神様は“わが愛する者、わが美しい人よ。”と呼びかけてくださっています。冬も過ぎ去り、大雨もかならず通り過ぎます。今日も我々を愛しておられる神様は我々を呼びかけ励ましてくださいます。立って、出ておいで！と我々に手を伸ばして立たせようとしてくださいます。そして、もう一度われらを愛する主の御前に出て来るようにわれらを相変わらず待てて下さっています。全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みんながもう一度愛する主にあつて共に立ち上がり、主に出て来る事ができ、これからも愛する主とともに日々歩まれる一生涯となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！